

Ⅱ. 概要

1. はじめに

霊長類研究所の概要を述べるにあたって、例年のことではあるが、その沿革から紹介する。霊長類研究所は、霊長類に関する総合的研究をおこなう目的で、「全国共同利用研究所」として、1967年（昭和42年）6月1日、京都大学に附置・設立された。

京都大学には2010年度当初にiPS研究所ができたので、この年報原稿を執筆している時点で、霊長類研究所は京都大学にある14の附置研究所のひとつである。なお、2010年度からは、後述する「共同利用・共同研究拠点」となった。

創立以来43年間にわたって、人間を含めた霊長類の生物学的特性の研究で多くの研究成果をあげてきた。2010年4月1日現在、本研究所には4つの研究部門（10分野）と、2つの附属研究施設（人類進化モデル研究センターと国際共同先端研究センター）がある。教員数は約40名、大学院生等も約40名である。更に、海外での学術調査や外国人研究者の来訪も多く、活発な国際交流がおこなわれている。

以下に、創設以後の歴史の概要を記す。1968年に、現在の犬山市官林のキャンパスに研究棟第1期工事が完了した。以後、第2期工事、共同利用研究員宿泊棟、犬山市塔野地の職員宿舎、宮崎県串間市の幸島野外観察施設の研究棟などの竣工をへて、1969年6月2日に霊長類研究所の開所式がおこなわれた。また共同利用研究は、1969年8月1日より開始された。1972年には、キャンパス西側に隣接した1.3ヘクタールの土地を購入し、サル類保健飼育管理施設の本棟、檢疫棟、放飼実験場などを建設した。1977年、本館の第4期工事によって、当初構想していた研究棟が完成した。1980年には、実験用サルの繁殖コロニーと育成舎が竣工し、サル類の自家繁殖体制が整備された。また、1983年には、従来の幸島野外観察施設をニホンザル野外観察施設へと改組拡充し、当初構想の9研究部門に加えて、2附属研究施設の体制となった。

1993年4月に、創立以来はじめて、研究部門の改組をおこなった。従来の伝統的な学問区分から抜け出し、新たな対象を掲げ複合的な視点をもった研究体制に整備することをめざした。大部門化改組によって、従来の9研究部門を4大部門10分野に再編統合した。これによって、チンパンジー研究の推進の核として新たに思考言語分野が誕生した。時を同じくして、1995年3月に、

本棟（研究棟）の東側に隣接して類人猿行動実験研究棟が建設され、チンパンジー研究をはじめとする多様な研究基盤が強化された。1999年4月には、新しい研究用サル類の創出・育成をめざして、サル類保健飼育管理施設を改組し、「人類進化モデル研究センター」を新たに発足させた。配置教員の増員もかない、従来の飼育管理運営の業務に加えて研究面についても充実をはかった。

2007年6月に、霊長類研究所は創立40周年を迎えた。同年、第一キャンパスの東に位置する第2キャンパス（総面積約76ヘクタール）を整備して、その南部の約10ヘクタールにリサーチ・リソース・ステーション（RRS）を開所した。里山の景観を活かした約1ヘクタールの林に、ニホンザルの群れが暮らしている。第一段階としてニホンザルを対象に、順次、新世代の研究用霊長類の繁殖育成をはかる研究基盤整備の事業である。

この創立40年の節目の年に、本棟の耐震改修と機能向上のための工事をおこなった。地上5階、地下1階、全216室がすべて退去するという大工事だったが、所員各位の協力があつて、2008年3月に無事に竣工した。同年4月には、ニホンザル野外観察施設を廃止し、霊長類研究所が母体となって、「野生動物研究センター」という新しい部局が京都大学に誕生した。霊長類以外の野生動物を研究の視野にいれて、人間を含めた自然のありかたや、地球社会の調和ある共存を探る研究をおこなう研究教育組織である。

さらにこれを受けて、2009年4月に、霊長類研究所は「国際共同先端研究センター（CICASP）」を新たに設置した。背景としては、1953年以来55年間続いた「全国共同利用」という制度が終了し、2010年度当初からは「共同利用・共同研究拠点」という新制度が発足した。そうした新制度への移行を視野に入れて、霊長類研究所が真に国際研究所として機能するためのセンターである。

国際共同先端研究センターが推進の核となって、研究所が全体的に取り組む大型事業がある。ITP-HOPE事業、AS-HOPE事業、HOPE-GM事業、アジア・アフリカ学術基盤形成事業などである。生物科学専攻の一翼を担ってグローバルCOE事業にも取り組んでいる。こうした大型プロジェクトについては、本年報で別項を設けたのでそちらを参照されたい。

研究所のおこなう補助金事業としては、NBR事業とGAIN事業がある。両方とも、2002年度に文部科学省が提唱して始まったナショナルバイオリソース事業の一環である。2009年度から補助金事業になった。NBR事業は、ニホンザルバイオリソース事業の略称である。中核機関は生理学研究所で、そのサブ機関として、研究

用ニホンザルの繁殖育成事業をおこなっている。年間 100 頭の所外供給に向けた事業を進めている。GAIN 事業は、大型類人猿情報システム事業の略称である。中核機関は国立遺伝学研究所で、そのサブ機関として、チンパンジー・ゴリラ・オランウータンのヒト科 3 種について、その全個体情報のデータベース化を進めている。

このほかに、研究所の本務としての全国共同利用研究については、所内に共同利用実行委員会を作って例年通り対応してきた。また、特別教育研究経費プロジェクト分として、リサーチリソースステーション (RRS) による環境共存型屋外施設による霊長類の飼育研究を推進してきた。RRS 事業は、2005-06 年度の施設整備を経て、2006-2010 年度の研究プロジェクトに採用されている。これによって、2009 年度は、新たに大型ケージ 1 棟を RRS に設置し、官林地区のグループケージ群の改築にも着手して大型ケージ 1 棟を設置した。研究所の RRS 事業は、国が推進する NBR 事業と不可分の一体である。

研究と並行して、大学院教育をおこなっている。霊長類研究所がおこなう大学院教育は、理学研究科動物学専攻の 1 分科として 1972 年に発足した。1986 年には、霊長類学専攻として専攻独立を果たした。その後、1993 年の大学院重点化改組を受けて、理学研究科の協力講座と位置づけられて、生物科学専攻のなかの霊長類学系となった。なお 2008 年度からは、野生動物研究センターが発足したのを受けて、これと協力して、「霊長類学・野生動物系」と名称を変更して後進の若手研究者の育成に努めている。2009 年度末をもって若手研究者が巣立っていくとともに、2010 年度当初に新たに 5 人の大学院生を迎えることができた。

本年報の発行にあたって、2009 年度の教員の交代について述べる。2009 年度は 11 人の新たな任用を決定し、任期終了を 1 年後に迎える 2 人の再任を決定し、3 人が年度末で定年退職した。任用の決定順に述べる。年度途中に、井上謙一 (統合脳システム分野・脳プロジェクト、特定助教)、松本正幸 (統合脳システム分野、助教)、早川敏之 (人類進化モデル研究センター、助教) が着任した。2010 年度当初着任のものとして、岡本宗裕 (人類進化モデル研究センター、教授)、平崎鋭矢 (進化形態分野、准教授)、郷康広 (遺伝子情報分野、助教)、山本真也 (ボノボ研究部門、特定助教)、倉岡康治 (高次脳機能分野・新学術領域、特定助教)、フレッド・ベルコビッチ (国際共同研究センター、教授)、デイビッド・ヒル (国際共同センター、教授)、足立幾磨 (特別推進研究から国際共同先端研究センターへの配置換え、特定助教) である。教員の任期制により任期終了を 1 年

後に迎える松井智子 (認知学習分野、准教授) と宮地重弘 (高次脳機能分野、准教授) について再任審査をおこなないその再任を決定した。

定年退職の教員は、松林清明教授、景山節教授、中村伸助教の 3 人である。近年の教員人事によって、研究所の教員の構成は著しく若返った。新年度当初の全教員の年齢分布をみると、教授の平均年齢が 53 歳、准教授が 45 歳、助教が 35 歳である。これに 20 歳代のポスドクや 20 歳代前半の大学院生がいる。また、協議委員会を構成する教員だけに限っても、その在職年数の中央値が 9 年になった。清新な研究・教育体制になったといえるだろう。

なお、技術職員の早川清治が定年退職を迎え、国際共同先端研究センターに再雇用された。熊崎清則も定年退職を迎えた。事務関係では、小倉一夫事務長、細川明宏総務掛長、河田友彦会計掛長が離任し、後任として八木定行事務長、小野一代総務掛長、川俣昭会計掛長が着任した。引き続いていわゆる団塊の世代の退職の時期を迎えており、研究所の教職員構成の変化が著しい。清新な教職員の加入によって霊長類学の更なる発展を期したい。なお、2009 年度末に所長の改選が行われ、松沢哲郎が過去 2 期 4 年間に続いて 3 期目の所長職に留まることになった。なお研究所の規定上、所長任期は 3 期までである。

2009 年度の特記事項として、共同利用・共同研究拠点への移行についての説明を付したい。京都大学霊長類研究所は、平成 22 年度から、「共同利用・共同研究拠点」に移行した。その経緯と現状を解説するとともに、引き続きのご支援をお願いしたい。

京都大学霊長類研究所は創設時から全国共同利用の附置研究所という位置づけだった。その「全国共同利用」という制度そのものが見直されて、2009 年度に廃止され、2010 年度度から新たに「共同利用・共同研究拠点」という制度が始まった。

まず歴史的経緯から述べる。湯川秀樹がノーベル物理学賞を 1949 年に受賞し、それを記念して京都大学に湯川記念館が建てられた。全国の理論物理学の研究者が集う場所となった。そうした動きを当時の文部省が追認して、「全国共同利用」という制度が 1953 年に始まった。したがって全国共同利用の附置研究所の第 1 号が京都大学基礎物理学研究所である。湯川の名前を残して、研究所の正式英語表記は、Yukawa Institute for Theoretical Physics である。その後、全国の大学に、全国共同利用の附置研究所が創られた。霊長類研究所もそのひとつである。

全国共同利用の研究所・研究センターは、平成 21 年

度末の時点で、北は北海道大学から南は琉球大学まで、国立大学に 41 あった。これらが「国立大学附置全国共同利用研究所・研究センター協議会」を構成し、相互の連携を通じて、全国共同利用という制度のもとで日本の学術の推進を図ってきた。

全国共同利用制度が見直される契機は、制度それ自体が半世紀を超えて見直すべき時期に来ていることもあるが、2004 年度の国立大学法人化の影響とによってよいだろう。法人化によって、全国共同利用という制度そのものの法的根拠が失われた。そこで、文部科学省の科学技術・学術審議会で検討を重ね、たどりついた結論が「共同利用・共同研究」という新制度である。全国共同利用との違いは、主に 3 点に要約される。①全国共同利用の研究所・研究センターは国立大学だけに限られていたが、公立や私立も可能になった。②複数の大学の研究所・研究センターが連携して 1 拠点を構成することもできる。③拠点到認定された研究施設（研究所と研究センターの総称）は、所属の大学の中期目標・中期計画の付表に記載される。すなわち、当該期間中は、大学の一存で改廃することはできない。なお、共同利用・共同研究拠点の説明は下記のサイトを参照していただきたい。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kyoten/index.htm

2009 年度に先行して、モデルケースとなる最初の共同利用・共同研究拠点として、京都大学再生医科学研究所が認定された。再生医科学研究所はそれまでも京都大学の附置研究所だったが、全国共同利用の機能は担っていなかった。これをひな形として、共同利用・共同研究拠点への申請が 2009 年度に審議された。その結果、2010 年度当初の時点で、全国に 79 の共同利用・共同研究拠点到認定されるに到った。内訳は、国立大学 70 拠点と私立大学 9 拠点である。なお 41 あった全国共同利用の研究施設はすべて拠点到移行した。

共同利用・共同研究拠点として文部科学省に承認された国立大学の研究施設が結集して、新たに協議会を結成した。従来の「国立大学附置全国共同利用研究所・研究センター協議会」（略称：全共協議会、本研究所が 2009 年度の会長当番）は 2009 年度末をもって解散した。新たな協議会は、「国立大学共同利用・共同研究拠点協議会（略称：拠点協議会）」として、2010 年 4 月 3 日に発足した。下記のサイトを参照されたい。

<http://www.kyoten.org/>

拠点協議会の要点は下記のとおりである。①「国立大学共同利用・共同研究拠点協議会」として国立大学の全拠点到結集する。②会のミッションは、拠点間の相互連携（ならびに国立大学附置研究所・センター長会議や大学共同利用機関との連携）を通じて、共同利用・共同

研究を振興し、日本の学術の発展に寄与することである。③総会の開催等によって連携を図り、ホームページやシンポジウム等を通じて共同利用・共同研究拠点制度のもとで得られた研究成果を広く国民に周知する。なお、共同利用・共同研究拠点という制度そのものの制約から、今後も毎年新たに認可される拠点到ありうること、および「中期目標・中記計画」と連動して拠点の見直しがあること、したがってこの「拠点協議会」のメンバーシップは折々の節目で変わる、と認識している。実際に、2010 年 6 月に、野生動物研究センターが、次年度から共同利用・共同研究拠点になることが決定した。

拠点到認定される要件として、外部に開かれた「運営委員会」が必要である。その委員会は、学外委員が半数以上を占めなければならない。霊長類研究所は、そもそも全国共同利用研究所として発足したので、設立当初から運営委員会をもっている。そこで、この運営委員会に拠点の運営についても付託し、その機能に対して「拠点運営協議会」という名称を付与した。構成員は運営委員会と同様だが、議長を学外者が務める。

現在の霊長類研究所の運営委員は、その第 22 期（2009. 7. 1～2011. 6. 30）にあたり、上記の拠点運営協議会の委員も兼ねる。下記の方々である。1 号委員（所内）として、平井啓久、景山節（2010 年度当初から渡邊邦夫）。別の 1 号委員（学内所外）として、山極壽一（理学研究科教授）、松林公蔵（東南アジア研究所教授）、阿形清和（理学研究科教授）。以上、学内者が 5 名である。2 号委員（学外）として、諏訪元（東京大学総合研究博物館教授）、高畑由起夫（関西学院大学総合政策学部教授）、中道正之（大阪大学人間科学研究科教授）、石田貴文（東京大学理学系研究科准教授）、長谷川寿一（東京大学大学院総合文化研究科教授）、伊佐正（自然科学研究機構生理学研究所教授）、入来篤史（理化学研究所グループディレクター）の 7 名である。すなわち運営委員の所内と所外の比は 2:10 で、学内と学外の比は 5:7 になっている。なお、この 2 号委員 7 名が学外者だが、これは日本霊長類学会からの推薦をもとに選出された 4 名と、その他の学識経験者として所長・将来計画委員会が推挙して協議員会で選出された 3 名から構成されている。以上の構成と選出方法については、霊長類研究所の規定に明記されている。

最後に、ニホンザル出血症（仮称）について説明したい。2001 年 7 月 26 日に、当時 11 歳のメスのニホンザルが原因不明の疾病を発症し、2 日後の 28 日に亡くなった。血小板や赤血球や白血球が急減して極度の貧血を呈する。まる 1 年後の 7 月 31 日までのあいだに、同様の症状を呈した 7 頭がいて、うち 6 頭が死亡した。い

ずれも実験棟の同じひとつの部屋の発症なのでなんらかの環境要因によるものと当初考えた。発症は自然に終息し、原因究明の努力をしたが不明のまま約6年間で平穏に過ぎた。

2008年3月12日に、当時12歳のオスのニホンザルが同様の症状を呈して、約3か月後に死亡した。以後、2008年に5頭、2009年に16頭、2010年に17頭、合計38頭が発症した。38頭発症のうち13頭の安楽死処置を含めて37頭が死亡した。発生場所は、3か所に限定されている。なお、最初の発症から約10年間の資料を精査して、その結果をまとめ、霊長類研究所疾病対策委員会の名前で、『霊長類研究』に情報論文として掲載し報告した。2010年6月22日の発行である。

疾病の原因究明の努力を続けているが、まだその原因を特定できない。霊長類研究所は、現時点で、14種約1200個体のヒト以外の霊長類を保有している。うち、ニホンザルは約790頭である。この10年間のあいだに、ニホンザル以外の霊長類では、当該の症状を呈した個体はいない。また、ニホンザルの半数近くを飼育するリサーチリソースステーションでの発症例もない。何らかの病原体によるニホンザルに固有の疾病である可能性が高いと考えている。ビルコンの導入による徹底的な消毒と、発症個体の隔離を進めるとともに、防護服を新調してフェイスマスク等の着用を徹底し、ひきつづき封じ込めと原因究明の努力を続けている。

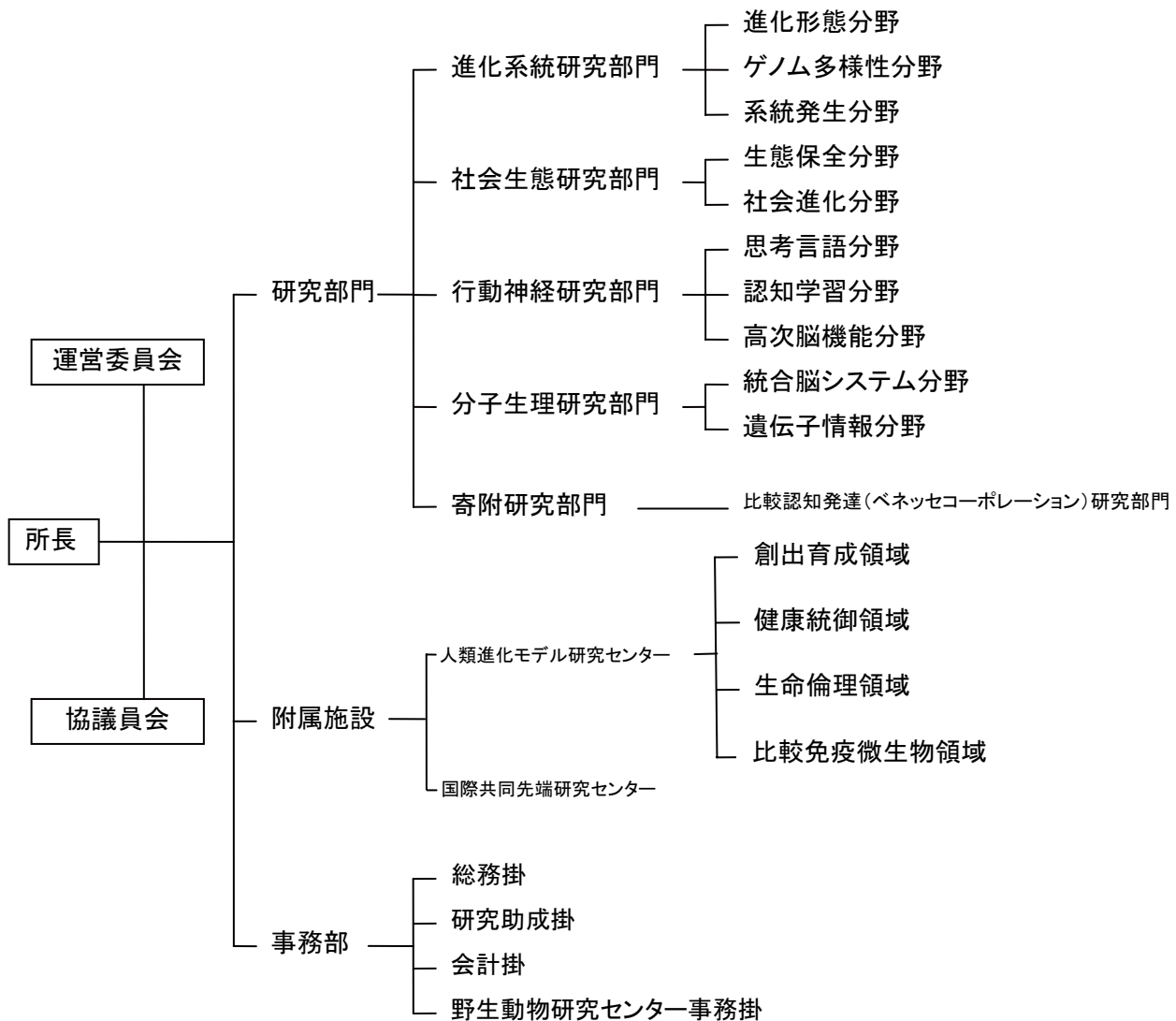
今後さらに、発症ゼロに向けた努力と防御策の向上をはかり、原因の究明に加えて、一般の人々も含めて広く情報開示の作業を粛々と進めていきたい。ニホンザル出血症（仮称）を、与えられた試練の場にとらえて霊長類研究所のあるべき姿を示していく所存である。

京都大学霊長類研究所は、これからも日本の霊長類学の発展のために、また国際的な研究連携の拠点として、設立当初の使命を継承しつつ人間の進化の霊長類的起源の解明に努力したい。そのためにも、研究者コミュニティさらには一般の皆様方に、研究所の現状と概要をここに説明するとともに、引き続きご支援とご理解を願うしだいである。

（文責：松沢哲郎）

2. 組織

(1) 組織の概要（2010年3月31日現在）



所長	松 沢 哲 郎	
運営委員	諏 訪 元	(東京大学総合研究博物館 教授)
(順不同)	長谷川 寿一	(東京大学大学院総合文化研究科 教授)
	高畑 由起夫	(関西学院大学総合政策学部 教授)
	山 極 寿 一	(京都大学大学院理学研究科 教授)
	松 林 公 蔵	(京都大学東南アジア研究所 教授)
	阿 形 清 和	(京都大学大学院理学研究科 教授)
	中 道 正 之	(大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
	伊 佐 正	(生理学研究所 教授)
	入 来 篤 史	(理化学研究所 チームリーダー)
	平 井 啓 久	(京都大学霊長類研究所 教授)
	景 山 節	(京都大学霊長類研究所 教授)
	石 田 貴 文	(東京大学大学院理学研究科 准教授)
事務長	小 倉 一 夫	

職員の内訳

教授	准教授	助教	事務職員	技術職員	小計	非常勤(時間)	合計
13	11	16	9	11	60	92	152

大学院生・研究者等の内訳

博士課程	修士課程	特別研究学生	外国人共同研究者	特別研究員(PD)	合計
26	8	2	2	3	41

(2) 所員一覧 (2009 年度)

進化形態分野 Fax:0568-61-5775

濱田 穰	教授
毛利 俊雄	助教
國松 豊	助教
早川 清治	技術職員
水谷 典子	事務補佐員
山本 亜由美	教務補佐員
WIDIYANI Tetri	外国人共同研究者

ゲノム多様性分野 Fax:0568-62-9554

古賀 章彦	教授
川本 芳	准教授
田中 洋之	助教
市野 進一郎	研究員 (研究機関)
澤村 育栄	事務補佐員
川本 咲江	研究支援推進員
川合 静	大学院生

系統発生分野 Fax:0568-63-0536

高井 正成	教授
西村 剛	准教授
江木 直子	助教
片岡 敦子	事務補佐員
服部 美里	事務補佐員
荻野 慎太郎	教務補佐員
伊藤 毅	大学院生
西岡 佑一郎	大学院生
ZIN MAUNG MAUNG THEIN	大学院生

生態保全分野 Fax:0568-63-0564

渡邊 邦夫	教授
半谷 吾郎	准教授
橋本 千絵	助教
松原 幹	研究員 (研究機関)
松田 一希	研究員 (研究機関)
村井 勅裕	研究員 (研究機関)
大井 由里	研究支援推進員
江成 広斗	学振特別研究員
斉 暁光	外国人共同研究者
Zhang, Peng	外国人共同研究者
RIZALDI	外国人共同研究者
HADI Islamul	外国人共同研究者
大谷 洋介	大学院生
澤田 晶子	大学院生
松岡 絵里子	大学院生
山田 彩	大学院生

社会進化分野 Fax:0568-63-0565

古市 剛史	教授
Huffman, Michael, Alan	准教授
辻 大和	助教
坂巻 哲也	研究員 (研究機関)
竹元 博幸	研究員 (研究機関)
広瀬 しのぶ	研究支援推進員
MULAWA Mbangi Norbert	外国人共同研究者
LECA JEAN BAPTISTE	外国人共同研究者
神田 恵	大学院生
郷 もえ	大学院生
JAMAN Mohammad Firoj	大学院生
MACINTOSH, ANDREW JAMES JONATHAN	大学院生

思考言語分野 Fax:0568-62-2428

松沢 哲郎	教授
友永 雅己	准教授
林 美里	助教
足立 幾磨	特定助教 (特別推進研究)
松阪 崇久	研究員 (研究機関)
大橋 岳	研究員 (科学研究)
大平 知美	研究員 (NBRP)
酒井 道子	事務補佐員
野上 悦子	教務補佐員
中島 麻衣	教務補佐員
堀 鈴香	技術補佐員
打越 万喜子	研究支援推進員
高島 友子	研究支援推進員
服部 裕子	学振特別研究員
小倉 匡俊	大学院生
狩野 文浩	大学院生
兼子 峰明	大学院生
佐藤 義明	大学院生
廣澤 麻里	大学院生
MARTIN, CHRISTOPHER	大学院生
山梨 裕美	大学院生

認知学習分野 Fax:0568-62-9552

正高 信男	教授
松井 智子	准教授
香田 啓貴	助教
柴崎 全弘	研究員 (研究機関)
早川 祥子	研究員 (グローバル COE)
親川 千紗子	教務補佐員
新谷 さとみ	技術補佐員
村井 倫子	技術補佐員
渡邊 直子	技術補佐員
加藤 朱美	研究支援推進員
伊藤 祐康	大学院生

小川 詩乃	大学院生
清長 豊	大学院生
小林 良子	大学院生
澤田 玲子	大学院生
橋本 亜井	大学院生
平石 博敏	大学院生
福島 美和	大学院生
三浦 優生	大学院生

高次脳機能分野 Fax:0568-63-0563

中村 克樹	教授
宮地 重弘	准教授
脇田 真清	助教
木場 礼子	研究員（産官学連携）
竹本 篤史	研究員（産官学連携）
藤田 恵子	事務補佐員
猿渡 正則	教務補佐員
一木 沙織	技術補佐員
三輪 美樹	技術補佐員
鈴木 冬華	研究支援推進員
高槻 成紀	学外非常勤講師
瀬瀬 大輔	学振特別研究員
倉岡 康治	学振特別研究員
石川 直樹	大学院生
小野 敬治	大学院生
鴻池 菜保	大学院生
瀬占 雅史	大学院生
平井 大地	大学院生

統合脳システム分野 Fax:0568-63-0416

高田 昌彦	教授
大石 高生	准教授
松本 正幸	助教
井上 謙一	特定助教（産官学連携）
笠原 洋紀	研究員（産官学連携）
平田 快洋	研究員（産官学連携）
梅村 真理子	研究支援推進員
金武 ひろみ	研究支援推進員
佐藤 阿佐子	研究支援推進員
南雲 樹	研究支援推進員
檜垣 小百合	大学院生
高原 大輔	特別研究学生
二宮 太平	特別研究学生

遺伝子情報分野 Fax:0568-62-9557

平井 啓久	教授
今井 啓雄	准教授
中村 伸	助教
光永 総子	研究員（厚生科研）

松井 淳	研究員（グローバルCOE）
宮田 正代	事務補佐員
上岩 美幸	教務補佐員
平井 百合子	技能補佐員
永友 寛一郎	受託研究員
鈴木 南美	大学院生
田中 美希子	大学院生

比較認知発達（ベネッセコーポレーション）研究部門

佐藤 弥	寄附研究部門准教授
伊村 知子	特定助教（寄附研究部門）
奥村 由香利	事務補佐員

人類進化モデル研究センター Fax:0568-62-9559

景山 節	教授
松林 清明	教授
明里 宏文	教授
鈴木 樹理	准教授
宮部 貴子	助教
早川 敏之	助教
熊崎 清則	技術職員
阿部 政光	技術職員
釜中 慶朗	技術職員
前田 典彦	技術職員
渡邊 朗野	技術職員
森本 真弓	技術職員
兼子 明久	技術職員
渡邊 祥平	技術職員
須田 直子	技術職員
菅原 亨	研究員（研究機関）
熊谷 かつ江	教務補佐員
蔵本 早希子	教務補佐員
岩崎 優紀	技術補佐員
齊藤 暁	技術補佐員
安江 美雪	技術補佐員
石田 恵津子	技能補佐員
伊藤 和子	技能補佐員
江口 聖子	技能補佐員
紀藤 咲子	技能補佐員
佐々木 順子	技能補佐員
朱宮 幸子	技能補佐員
高瀬 こがみ	技能補佐員
津川 則子	技能補佐員
立木 昌子	技能補佐員
中川 千枝美	技能補佐員
西村 未紀	技能補佐員
浜田 洋子	技能補佐員
福原 加奈絵	技能補佐員

横江 実穂子	技能補佐員
吉田 美千子	技能補佐員
阿部 恵	研究支援推進員
猪飼 良子	研究支援推進員
尾鷲 享子	研究支援推進員
兼松 璃々子	研究支援推進員
小林 陽子	研究支援推進員
近藤 ひろ子	研究支援推進員
佐々木 花子	研究支援推進員
葉栗 和枝	研究支援推進員
古橋 保志	研究支援推進員
堀内 ゆかり	研究支援推進員
山田 宜世子	研究支援推進員

国際共同先端研究センター

南雲 純治	再雇用職員
宿輪 マミ	特定職員

事務部 Fax:0568-63-0085

小倉 一夫	事務長
-------	-----

総務掛

細川 明宏	掛長
田中 雄三	事務職員
大藪 陽子	事務補佐員
後藤 知子	事務補佐員
小塚 貴子	事務補佐員
菅原 喜美子	事務補佐員
松澤 美津子	事務補佐員

研究助成掛

新野 正人	掛長
上川 憲史	主任
石田 千佳	事務補佐員
小川 幸枝	事務補佐員
原田 重代	事務補佐員
三輪 恭子	事務補佐員
図書室	
高井 一恵	事務職員
池田 早苗	事務補佐員
斎藤 千代子	事務補佐員
宿泊棟	
安東 和子	労務補佐員
内田 ひろみ	労務補佐員
佐々木 啓子	労務補佐員
柴田 敦子	労務補佐員
多目的ホール	
敷島 美香	労務補佐員

畑 美千代	労務補佐員
日比野 恵美子	労務補佐員

会計掛

河田 友彦	掛長
菅野 隆道	事務職員
小野 範子	事務補佐員
袴田 好乃	事務補佐員

情報検索室

福富 憲司	
-------	--

(3) 大学院生

2009 年度 生物科学専攻（霊長類学・野生動物系）

氏名	学年	指導教員
山田 彩	D3	渡邊 邦夫 古市 剛史
郷 もえ	D3	古市 剛史 杉浦 秀樹
平石 博敏	D3	正高 信男 脇田 真清
石川 直樹	D3	中村 克樹 大石 高生
檜垣 小百合	D3	大石 高生 高井 正成
田中 美希子	D3	平井 啓久 川本 芳
川合 静	D3	川本 芳 田中 洋之
ZIN MAUNG MAUNG THEIN	D3	高井 正成 江木 直子
神田 恵 (H21.5.31 退学)	D3	古市 剛史 杉浦 秀樹
JAMAN Mohammad Firoj	D3	M.A.Huffman 半谷 吾郎
佐藤 義明	D3	松沢 哲郎 今井 啓雄
福島 美和	D3	正高 信男 脇田 真清
三浦 優生	D3	正高 信男 友永 雅己
平井 大地	D3	中村 克樹 友永 雅己
松岡 絵里子	D2	半谷 吾郎 橋本 千絵
MACINTOSH, ANDREW JAMES JONATHAN (H21.10 で D3)	D2	M.A.Huffman 渡邊 邦夫
小倉 匡俊	D2	松沢 哲郎 鈴木 樹理
澤田 玲子	D2	正高 信男 高井 正成
橋本 亜井 (H21.5.31 退学)	D2	松井 智子 正高 信男
小野 敬治	D2	中村 克樹 友永 雅己
鴻池 菜保	D2	宮地 重弘 大石 高生
伊藤 毅	D1	高井 正成 毛利 俊雄

澤田 晶子	D1	半谷 吾郎 高井 正成
兼子 峰明	D1	友永 雅己 宮地 重弘
狩野 文浩	D1	友永 雅己 橋本 千絵
MARTIN, CHRISTOPHER	D1	松沢 哲郎 M.A.Huffman
伊藤 祐康	D1	正高 信男 西村 剛
瀬占 雅史	D1	宮地 重弘 大石 高生
西岡 佑一郎	M2	高井 正成 國松 豊
山梨 裕美	M2	松沢 哲郎 鈴木 樹理
小林 良子	M2	正高 信男 脇田 真清
大谷 洋介	M1	半谷 吾郎 川本 芳
小川 詩乃	M1	正高 信男 西村 剛
清長 豊	M1	正高 信男 西村 剛
鈴木 南美	M1	今井 啓雄 古賀 章彦
廣澤 麻里	M1	松沢 哲郎 香田 啓貴

(4) 研究支援推進員

氏名	採用期間
猪飼 良子	2009年4月1日～2010年3月31日
葉栗 和枝	2009年4月1日～2010年3月31日
阿部 恵	2009年4月1日～2010年3月31日
近藤 ひろ子	2009年4月1日～2010年3月31日
堀内 ゆかり	2009年4月1日～2010年3月31日
佐々木 花子	2009年4月1日～2009年6月30日
古橋 保志	2009年4月1日～2010年3月31日
南雲 樹	2009年5月1日～2010年3月31日
尾鷲 享子	2009年7月1日～2010年3月31日
加藤 朱美	2009年10月1日～2010年3月31日
鈴木 冬華	2009年10月1日～2010年3月31日
川本 咲江	2009年10月1日～2010年3月31日
打越 万喜子	2009年10月1日～2010年3月31日
高島 友子	2009年10月1日～2010年3月31日
大井 由里	2009年10月1日～2010年3月31日
広瀬 しのぶ	2009年10月1日～2010年3月31日
金武 ひろみ	2009年10月1日～2010年3月31日
佐藤 阿佐子	2009年10月1日～2010年3月31日
梅村 真理子	2009年10月1日～2010年3月31日
山田 宜世子	2009年10月1日～2010年3月31日
小林 陽子	2009年10月1日～2010年3月31日
兼松 璃々子	2009年10月1日～2010年3月31日

3. 予算概況

予算概要

(金額の単位はすべて千円)

運営費交付金	人件費	613,996
	物件費	154,225
	物件費（特別教育研究経費）	249,740
	施設整備費補助金	56,250
	計	1,074,211
外 部 資 金	受託研究費（8 件）	131,516
	受託事業費（4 件）	54,836
	文部科学省科学研究費補助金（47 件）	203,430
	厚生労働省科学研究費補助金（7 件）	57,489
	グローバル COE プログラム（1 件）	17,720
	グローバル 30 プログラム（1 件）	7,600
	ナショナル・バイオリソース・プロジェクト（2 件）	54,600
	寄附金（9 件）	10,773
	間接経費	48,184
	全学共通経費	2,251
	計	588,359
	合 計	1,662,570

(1) 2009 年度（平成 21 年度）受託研究費 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
受託研究費	大石高生	93,077	先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独創的霊長類モデルの開発と応用
受託研究費	大石高生	3,000	脳脊髄損傷からの機能回復における軸索構造の変化
受託研究費	正高信男	5,300	e-ラーニングを核とする多様な学習困難に対応した地域単位の学習支援ネットワークの構築
受託研究費	高田昌彦	5,300	ドーパミンによる行動の発達と組織化のメカニズムのシステムの解析
受託研究費	高田昌彦	11,539	サルにおけるモデル作製及びパーキン遺伝子導入の有効性と安全性の検討
受託研究費	中村克樹	8,000	精神神経疾患の解明のための霊長類モデル開発に関する研究
受託研究費	正高信男	500	発達障害のある児童の支援モデル研究事業
受託研究費	松沢哲郎	4,800	東山動物園におけるチンパンジーの知性展示の研究
合 計	8 件	131,516	

※金額は、間接経費を除く

(2) 2009 年度（平成 21 年度）受託事業費 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
受託事業費	松沢 哲郎	18,780	人類進化の霊長類的起源の解明に向けた若手研究者育成国際プログラム HOPE

受託事業費	古市 剛史	5,000	ヒト科類人猿の環境適応機構の比較研究
受託事業費	松沢 哲郎	37,763	人間の進化の霊長類的起源をさぐる研究のアジア諸国における国際連携
受託事業費	松沢 哲郎	21,710	人間の進化の霊長類的起源：ゲノムから心まで
合 計	4 件	54,836	

(3) 2009 年度（平成 21 年度）文部科学省科学研究費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
特別推進研究	松沢哲郎	61,100	思考と学習の霊長類的基盤
特定領域研究	高田昌彦	16,000	行動の組織化に関わる大脳皮質－大脳基底核連関の統合的研究
特定領域研究	宮地重弘	1,400	前頭前野－側頭連合野－海馬連関による記憶メカニズムの神経生理・解剖学的研究
新学術領域研究	足立幾磨	2,500	ヒト以外の霊長類における顔知覚様式の比較発達学的分析
新学術領域研究	中村克樹	9,900	他者との相互作用を介した情報獲得メカニズムの解明
基盤研究(S)	高田昌彦	28,000	神経路選択的な活動抑制とトレーシングによる大脳ネットワークの構築と機能の解明
基盤研究(A)	正高信男	13,700	ヒトとニホンザルにおける認知機能の加齢変化についての実験的比較研究
基盤研究(A)	濱田 穰	5,700	アジア大陸部におけるマカクの進化地理学：移住と多様化の解明
基盤研究(B)	友永雅己	3,500	表象形成の多様性、多重性、階層性－比較認知発達科学からのアプローチ
基盤研究(B)	大石高生	4,500	霊長類脳の発達加齢に関する比較生理学的研究：ツパイから類人猿まで
基盤研究(B)	景山 節	3,500	霊長類の採食戦略に適応した胃内消化酵素ペプシンの分子機能とゲノム進化
基盤研究(B)	渡邊邦夫	3,800	アジア産旧世界ザルの道具使用等社会行動に関する研究とその保全
基盤研究(B)	橋本千絵	1,200	ヒト科における「妊娠しにくさ」の進化～野生チンパンジーのメスの過剰な性行動の研究
基盤研究(B)	松井智子	6,500	自閉症児の音声受容特性に関する基礎研究－会話スキルの向上を目指して
基盤研究(B)	高井正成	789	東ユーラシアにおける新世代後半の霊長類進化に関する古生物学的研究
基盤研究(B)	平井啓久	2,700	テナガザル類の多様性と系統生物地理学
基盤研究(B)	今井啓雄	7,000	ゲノム多様性を基盤とした霊長類の種内・種間感覚特性の解明
基盤研究(C)	鈴木樹理	900	マカクを用いたガンマヘルペスウイルス関与リンパ腫モデル作出の基礎研究
基盤研究(C)	田中洋之	1,000	飼育下マカク集団の遺伝的多様性の変化と近親交配の影響に関する研究
基盤研究(C)	高井正成	2,100	第四紀のニホンザルの進化に関する古生物学的研究
基盤研究(C)	明里宏文	1,500	新規霊長類モデルを用いた急性慢性C型肝炎における自然免疫の意義に関する研究
挑戦的萌芽研究	竹元博幸	200	人類の地上生活の獲得と森林内微気象－野生 Pan 属の空間利用からのアプローチ
挑戦的萌芽研究	川本 芳	1,400	地域個体群の定義法と保全への応用－ニホンザルの保全－

挑戦的萌芽研究	正高信男	1,400	言語によらない代数的思考メカニズムと発達障害についての実践的研究
挑戦的萌芽研究	今井啓雄	900	低分子と受容体の相互作用を基盤とした霊長類フェロモン受容機構解明の試み
若手研究(B)	林 美里	500	物の操作を尺度としたヒトとチンパンジーの比較認知発達
若手研究(B)	香田啓貴	700	小型類人猿における「音楽」知覚・認知の生物学的基盤
若手研究(B)	井上謙一	1,014	新規逆行性越シナプストレーシング法による大脳皮質－大脳基底核ループ回路の解析
若手研究(B)	佐藤 弥	1,000	動的表情に対する共鳴的表情応答の心的処理過程とその神経基盤
若手研究(B)	半谷吾郎	800	東南アジア熱帯林の霊長類の群集心理学
若手研究(B)	松阪崇久	246	ヒトおよびチンパンジーにおける攻撃性と葛藤解決行動
若手研究(B)	松田一希	2,400	霊長類社会の重層構造の解明：テングザルの種内変異
若手研究(B)	西村 剛	1,400	眼窩の真猿化に関わる顔面内部構造の変化に関する研究
若手研究(B)	村井勲裕	1,300	無人島に移入されたテングザル個体群と野生個体群の保全に関する研究
若手研究 (スタートアップ)	白井(伊村) 知子	1,070	空間認知における「参照枠」の効果：比較認知発達の視点から
特別研究員奨励費	額額大輔	1,100	皮質－視床下核（ハイパー直接路）が運動の制御において果たす機能の解明
特別研究員奨励費	福島美和	900	学習に困難を示す子どもの教育支援プログラムと脳機能の変化
特別研究員奨励費	服部裕子	700	利他性の進化－「思いやり」を支えるメカニズムに着目して－
特別研究員奨励費	小倉匡俊	500	霊長類に対する社会環境エンリッチメント手法の比較認知科学的検討
特別研究員奨励費	佐藤義明	500	霊長類の道具使用における物理的知性と社会的知性
特別研究員奨励費	三浦優生	500	健常児・自閉症児における話者の確信度の理解とその発達的变化の比較検討
特別研究員奨励費	倉岡康治	700	霊長類のコミュニケーションにおける視聴覚統合とその脳内機序の解明
特別研究員奨励費	狩野文浩	700	チンパンジーの情動行動に関する比較認知・行動学的研究
特別研究員奨励費	兼子峰明	700	チンパンジーにおける「行為する自己」の認識－自己認識の比較認知科学的研究
特別研究員奨励費	澤田玲子	700	高機能自閉症児の自他認知の発達とその支援－脳波計測による療育の評価－
特別研究員奨励費	伊藤祐康	700	読み書きに関する学習困難に対応したeラーニングによる療育とその実証的評価法の構築
特別研究員奨励費	LECA, J-B	400	ニホンザルの文化－石遊びに関する飼育下の実験と長期に渡る野外研究
特別研究員奨励費	RIZALDI	600	霊長類における攻撃交渉時の行動調整とスマトラ産ほ乳類 26 種の保全
特別研究員奨励費	ZHANG Peng	700	ニホンザルの社会システムの比較研究
合 計	47 件	203,430	

※金額は、間接経費を除く

(4) 2009 年度（平成 21 年度）厚生労働省科学研究費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
政策創薬・一般	明里宏文	22,289	画期的な霊長類H I V－1 モデルによる抗エイズ薬、エイズワクチン評価基盤技術の開発に関する研究
政策創薬・一般	明里宏文	4,700	薬剤耐性H I V／A I D S 症例救済のための新規な機序による抗H I V 薬剤の開発研究
政策創薬・一般	明里宏文	2,500	宿主ゲノム多様性を考慮したC T L 誘導エイズワクチン開発戦略
肝炎・一般	明里宏文	12,000	肝炎ウイルスワクチン実用化のための基礎的研究
生物資源・一般	明里宏文	3,000	新世界ザルを用いたデングウイルス感染・発症動物モデル開発に関する研究
化学・一般	中村 伸	11,000	ナノマテリアルの健康影響の評価手法に関する総合研究
難治・一般	高田 昌彦	2,000	ビオプテリン代謝異常を伴う難病の実態および病態把握のための横断的研究
合 計	7 件	57,489	

(5) 2009 年度（平成 21 年度）研究拠点形成費等補助金《グローバル COE プログラム》内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
グローバル COE プログラム	正高 信男	17,720	生物多様性と進化研究のための拠点形成
合 計	1 件	17,720	

※金額は、間接経費を除く

(6) 2006 年度（平成 21 年度）国際化拠点整備事業費補助金《グローバル 30 プログラム》内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	コ ー ス 名
グローバル 30 プログラム	松沢 哲郎	7,600	国際霊長類学・野生動物コース
合 計	1 件	7,600	

(7) 2009 年度（平成 21 年度）

研究開発施設共用等促進費補助金《ナショナル・バイオリソース・プロジェクト》 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金 額	研 究 課 題
NBR	景山 節	45,000	大型飼育施設でのニホンザルの繁殖・育成事業
GAIN	松沢哲郎	9,600	大型類人猿の情報整備とネットワークづくり
合 計	2 件	54,600	

(8) 2009 年度（平成 21 年度）寄附金 内訳一覧

補助金等種別	研究代表者	金 額	寄 附 の 目 的
(財)京都大学教育研究振興財団	半谷 吾郎	380	果実生産と霊長類群集の構造：温帯と熱帯の比較
財団法人武田科学振興財団	今井 啓雄	2,850	「霊長類苦味受容の分子・細胞・個体研究」の研究に対する助成
東京医科歯科大学	明里 宏文	1,000	東京医科歯科大学による研究奨励寄附金
(株)先端生命科学研究所	明里 宏文	455	先端生命科学研究所による研究奨励寄附金
(株) ペットサン	明里 宏文	2,369	霊長類感染症に関する研究
財団法人 住友財団	江木 直子	1,425	「樹上性四足歩行型霊長類の四肢筋骨格モデルの構築
財団法人医科学応用研究財団	今井 啓雄	950	一運動行動の特殊化の起源を探る」をテーマとする研究 霊長類の苦味受容体をプローブとした生理活性物質探索の研究助成

渡邊 邦夫 長谷川 寿一	渡邊 邦夫 松沢 哲郎	92 1,252	野生ニホンザルの保全に関する研究 霊長類に関する総合的研究
合 計	9 件	10,773	

※寄附金額は、全学共通経費（2％）を控除した金額

4. 図書

霊長類学の研究成果を網羅する方針で図書を収集しています。特に霊長類学関係論文の別刷は年間 1000 件あまりを受け入れ、『霊長類学別刷コレクション』として閲覧に供しています。書籍については全所員からの推薦を受け付け、選定の参考にしています。

(1) 蔵書数

2010 年 3 月末現在、本研究所図書室に所蔵されている資料は、以下の通りです。

和書：7,405 冊（製本雑誌も含む）

洋書：17,196 冊（製本雑誌も含む）

霊長類学関連別刷（霊長類学別刷コレクション）：85,000 点

(2) 資料の所蔵検索

図書室で所蔵している図書・雑誌はすべて【京都大学蔵書検索 KULINE】で検索できます。

【京都大学蔵書検索 KULINE】にアクセスし、[詳細検索画面] - [所蔵館] の欄で [(82)霊長研] を選択すると、霊長類研究所の蔵書のみヒットします。

詳しくは京都大学図書館機構のホームページをご覧ください。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

霊長類学関連別刷（霊長類学別刷コレクション）は【霊長類学文献索引データベース】で検索できます。

霊長類研究所ホームページの topics【霊長類学文献索引データベース】をご覧ください。

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/library/books.cgi>

(3) 霊長類研究所図書室利用規程

I. 開室時間と休室

1. 開室時間

平日：9 時から 17 時まで。

2. 休室

土曜日、日曜日、国民の祝祭日、年末・年始は休室とする。

その他の臨時休室は、その都度掲示する。

II. 閲覧

1. 閲覧者の資格

- 1) 本研究所の所員。
- 2) 本研究所の共同利用研究員。
- 3) 1)、2) 以外の、京都大学に所属する者で、所属

図書施設の紹介のある者。

- 4) その他一般利用者。

2. 閲覧

- 1) 閲覧は所定の場所で行わなければならない。
- 2) 次の各号に掲げる場合には閲覧を制限することができる。
 - (1) 当該資料に独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号。以下「情報公開法」）という。第 5 条第 1 号、第 2 号及び第 4 号に掲げる情報が記録されていると認められる場合における当該情報が記録されている部分。
 - (2) 当該資料の全部又は一部を一定の期間公にしないことを条件に個人又は情報公開法第 5 条第 2 号に規定する法人等から寄贈又は寄託を受けている場合における当該期間が経過するまでの間。
 - (3) 当該資料の原本を利用させることにより当該原本の破損若しくはその汚損を生じるおそれがある場合又は当該資料が現に使用されている場合。

III. 貸出及び返却

1. II の 1 の 1) の該当者及び、2) のうち予め利用者カードを提出した者は、下記に従い図書を借用できる。すべての借用資料は、原則として所外に持ち出すことはできない。

1) 借用資料の種類と借用方法

a. 単行本

- (i) 単行本は 1 か月間借用できる。
- (ii) 借用時には、ブックカード及び代本板用紙に必要事項を記入する。ブックカードは所定の箱に入れ、代本板用紙は代本板の背に挿入して、書架上の本のあった位置に置く。

b. 製本雑誌

- (i) 製本雑誌は 3 日間借用できる。
- (ii) 借用方法は単行本に準じる。

c. 未製本雑誌

- (i) 未製本の雑誌は 15 時から翌朝 10 時までの間に限り借用できる。
- (ii) 借用時には貸出カードに必要事項を記入する。

d. 別刷

- (i) 別刷は開室時間中に図書室内でのみ利用できる。
- (ii) 利用後は、返却台の箱に返却する。

e. 他機関からの借用資料

- (i) 他機関からの借用資料は、開室時間中の図書

室内での利用に限る。

(ii) 利用後は図書係員に返却する。

- 2) 参考図書その他禁帯出扱いの図書は貸出さない。
 - 3) 借用中の資料を転貸してはならない。
 - 4) 再手続きをすることにより貸出期限の延長ができる。ただし、他に借用希望者がある時は、他を優先する。
 - 5) 借用後の図書は返却台に返却する。
2. II の 1 の 3) の該当者は、所属の図書施設を通じて借用を依頼することができる。
- 1) 借用資料は単行本のみで、所属図書施設内での利用に限る。
 - 2) 借用期限は 2 週間とするが、本研究所員からの要請があった場合には、借用期限内であっても、速やかに返却することとする。

IV. 総点検及び長期貸出

1. 定期的に図書の総点検を行う。この時は、貸出期限内外を問わず、すべての図書を返却する。
2. 総点検期間中、図書室を休室とすることがある。
3. 図書委員会により研究室等への備え付けが認められた時は、長期貸出扱いとする。長期貸出期間は 1 年で、長期貸出扱いの更新は総点検時に行う。

V. その他

1. 図書室資料の目録及びこの図書室利用規程については常時図書室に備え付ける。
2. 資料を紛失したり汚損した場合は、代本または相当の代金で補わなければならない。
3. 借用資料を期日までに返却しなかった場合、以後の貸出を一定期間停止されることがある。
4. 図書室内(書庫を含む)は禁煙とする。

附則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

平成 16 年 4 月 1 日制定

5. サル類飼育頭数・動態

2009 年度（平成 21 年度末）飼育頭数

種 名	頭 数
コモンマーモセット	79
ワタボウシタマリン	25
ヨ ザ ル	15
リ ス ザ ル	4
フサオマキザル	9
ケナガクモザル	1
ミ ド リ ザ ル	1
ニ ホ ン ザ ル	389
ニ ホ ン ザ ル(NBR)*	324
ア カ ゲ ザ ル	202
タ イ ワ ン ザ ル	5

種 名	頭 数
ボンネットザル	9
カ ニ ク イ ザ ル	30
マ ン ト ヒ ヒ	5
アジルテナガザル	3
チ ン パ ン ジ ー	14
合 計	1115

*NBR（「ニホンザル」バイオリソースプロジェクト）の預託を受け飼育しているもの

2009 年度（平成 21 年度）サル類動態表

区 分 種 名	増 加			減 少（死亡など）										小 計	増 減
	出 産	導 入	小 計	実 験 殺	事 故 死	外 傷 死	呼 吸 器 系 疾 患	消 化 器 系 疾 患	感 染 症	泌 尿 器 弱	衰 弱	そ の 他	剖 検 不 能	所 外 供 給	
コモンマーモセット	31	40	71	6				1			1	10		18	53
ニホンザル	51	63	114	23		1	2	6	5		1	19		16	41
ニホンザル(NBR)	59	102	161		1	4	5	4	3		2	21		17	104
アカゲザル	51		51	55		3	1	5		1	2	4			-20
タイワンザル				1											-1
カニクイザル	4		4	11								1			-8
ヨザル				1											-1
ミドリザル							1								-1
小 計	196	205	401	97	1	8	9	16	8	1	6	55		33	167
合 計	401		401	234										234	167

6. 資料

霊長類研究所が所蔵する資試料は、骨格標本、液浸標本、化石模型、遺伝子試料、CT 画像などからなり、外部の研究者にも基本的にすべて公開されている。資試料のほとんどはデータベース化されており、資料委員会の許可にもとづいて利用希望者に提供され、研究遂行上の必要に応じて貸し出しもおこなっている。他機関所蔵の資料との交換も受け入れている。

(1) 霊長類骨格資料(表 1)

現在、資料委員会のデータベース(PRISK)に登録された霊長類骨格標本は表 1 の通りである。その数は 8,200 点を超え、大部分はマカク類を中心とした旧世界ザルの標本である。特にニホンザルの標本は飼育・野生由来個体を合わせて 3300 点以上を数え、世界的に見ても稀なコレクションである。その他に、新世界ザルの標本も約 1,450 点保有している。類人猿、および原猿類(+ツパイ)の標本は、それぞれ数十点ずつである。

(2) 霊長類以外の骨格標本(表 2)

霊長類以外にも、哺乳類を中心に 1,400 点近い骨格標本を所蔵している。内訳は、タヌキ、キツネ、ツキノワグマ、テン、イタチ、イノシシ、シカ、カモシカなど日本産哺乳類が多い。日本産の野生哺乳類が減っている現在、これらは貴重な資料である。

骨格標本はすべて研究所新棟 4 階と本棟地下の骨格資料室において移動式標本架にならべて保管されている。標本は種ごとに分類され、種内では標本番号にしたがって配列されている。利用希望者は、資料室に設置されたコンピューター上で骨格標本データベース(PRISK-Z)を検索することができる。

(3) 液浸標本(表 3, 4)

本棟地下及び栗栖地区の液浸資料室に各種霊長類のホルマリンもしくはアルコールで固定された液浸標本が 800 点以上保管されており、共同利用研究者などを対象に、研究・教育目的で提供されている。データベース(PRISK)に登録された霊長類標本は表 3 の通りである。このように大規模な液浸標本資料は稀有であり、世界的にみてもなかなか利用機会が得られない貴重なコレクションである。霊長類以外の液浸標本も 50 点ほどある(表 4)。現在全所蔵標本のデータベース化が進めら

れている。

(4) 化石模型

人類および中新世ホミノイドを中心に 495 点の化石模型を所蔵し、データベース(PRICAST)に登録して研究利用に供している。

(5) 霊長類遺伝子関連試料

平成 21 年度より大型類人猿ネットワーク (GAIN) の情報を通じて譲渡を受けた試料(チンパンジー臓器数個体分)や、研究所内で多重利用の対象となった試料の一部(旧世界ザル、新世界ザル等)を管理し、共同利用研究等に提供している。RNA later 処理試料や凍結試料が主であるが、譲渡契約等の関係から原則として利用は所員と共同利用研究員に限定しているので、利用希望者は関係所員に問い合わせてください。現在、データベース化を進めている。

(6) CT 画像

平成 21 年度に CT 撮像装置が導入されたのを期に、所蔵標本の CT 画像データ化を進めている。管理運用内規に基づいて、画像データをデータベース化して研究利用に供する準備を進めている。

(7) その他

以上の他に、被毛標本数十点が保有されている。

霊長類研究所資料委員会は国内外の多くの研究者がこれらの資試料を利用して研究を進めることを希望しており、利用希望者の要請にできるだけ応えたいと考えている。そのため、資試料の充実に努めるとともに、上記のように所蔵資試料のデータベース化など利用環境の整備をおこなっている。新しい資試料の作製、受け入れを積極的におこなっており、毎年、その数は増加している。資試料を一層充実させるため、野外調査などの際の標本資料の採集にご協力くださるようお願いする。

骨格・液浸標本の利用許可については、非破壊的な使用目的の場合は簡便な手続きで利用できる。標本の破壊が必要だったり破損の恐れのある研究利用もできるが、その際は資料委員会への十分な説明に基づく審査を受ける必要がある。また、大型類人猿情報ネットワーク (GAIN) 等の情報により、貴重な資試料を動物園等の

飼育施設から譲渡していただいているので、利用規約や契約等の遵守をお願いする。

備考：資料委員会では、霊長類研究所資料室で登録・保管する他、資試料に関するデータのみの登録も受け付けています。あるいは、管理者の移籍・退職などによって管理困難となった標本・資料の取り扱いについても相談を受けます。霊長類研究所資料委員会までご連絡ください。

（平成 22 年度連絡先：江木直子

siryo [AT] pri.kyoto-u.ac.jp）。

（文責：西村剛）

2009 年度（平成 21 年度）所蔵骨格資料

表 1 霊長類骨格資料

和名	学名	標本数
ホミノイド	Hominoidea	95
テナガザル属	<i>Hylobates</i> spp.	57
チンパンジー属	<i>Pan troglodytes</i>	30
ゴリラ属	<i>Gorilla gorilla</i>	6
オランウータン属	<i>Pongo pygmaeus</i>	2
旧世界ザル	Cercopithecoidea	6602
マカク属	<i>Macaca</i> spp.	4891
ラングール属	<i>Presbytis</i> spp.	176
コロブス属	<i>Colobus</i> spp.	365
コバナテングザル属	<i>Simias concolor</i>	132
グエノン属	<i>Cercopithecus</i> spp.	571
パタス属	<i>Erythrocebus patas</i>	18
マンガベイ属	<i>Cercocebus</i> spp.	16
ゲラダヒヒ属	<i>Theropithecus gelada</i>	1
ヒヒ属	<i>Papio</i> spp.	414
マンドリル属	<i>Mandrillus</i> spp.	18
新世界ザル	Ceboidea	1451
リスザル属	<i>Saimiri sciureus</i>	989
ヨザル属	<i>Aotus trivirgatus</i>	59
ティティ属	<i>Callicebus</i> spp.	49
ホエザル属	<i>Alouatta</i> spp.	51
クモザル属	<i>Ateles</i> spp.	12
ウーリークモザル属	<i>Brachyteles</i> spp.	3
ウーリーモンキー属	<i>Lagothrix</i> spp.	17
オマキザル属	<i>Cebus</i> spp.	92
サキ属	<i>Pithecia</i> spp.	14
ウアカリ属	<i>Cacajao calvus</i>	1
ゲルディモンキー属	<i>Callimico goeldi</i>	1
ピグミーマーモセット属	<i>Cebuella pygmaea</i>	7
マーモセット属	<i>Callithrix</i> spp.	61
タマリン属	<i>Saguinus</i> spp.	89
ライオンタマリン属	<i>Leontopithecus rosalia</i>	6
原猿類およびツパイ類	Prosimii & Tupaia	78
ツパイ属	<i>Tupaia</i> spp.	45
オオツパイ属	<i>Lyonogale</i> spp.	1
キツネザル属	<i>Lemur</i> spp.	9
エリマキキツネザル属	<i>Varecia</i> spp.	4
スローロリス属	<i>Nycticebus</i> spp.	9
ポットー属	<i>Perodicticus</i> spp.	1
ガラゴ属	<i>Galago</i> spp.	8
メガネザル属	<i>Tarsius</i> spp.	1
総計	Total	8226

表 2 その他の骨格資料

和名	学名	標本数
食肉目	Carnivora	912
イヌ科	Canidae	552
ネコ科	Felidae	23
クマ科	Ursidae	132
アライグマ科	Procyonidae	5
イタチ科	Mustelidae	180
ジャコウネコ科	Viverridae	20
奇蹄目	Perissodactyla	8
ウマ科	Equidae	6
バク科	Tapiridae	2
偶蹄目	Artiodactyla	349
ウシ科	Bovidae	50
シカ科	Cervidae	38
イノシシ科	Suidae	257
ペッカリー科	Tayassuidae	3
不明	indet.	1
齧歯目	Rodentia	68
ネズミ科	Muridae	22
リス科	Sciuridae	33
テンジクネズミ科	Caviidae	3
ヌートリア科	Myocastoridae	1
ヤマアラシ科	Hystricidae	1
オマキヤマアラシ科	Erethizontidae	1
カピバラ科	Hydrochoeridae	1
パカ科	Agoutidae	2
不明	indet.	4
ウサギ目	Lagomorpha	10
ウサギ科	Leporidae	9
ナキウサギ科	Ochotonidae	1
食虫目	Insectivora	1
モグラ科	Talpidae	1
有袋目	Marsupialia	6
オポッサム科	Didelphidae	2
ウォンバット科	Vombatidae	1
カンガルー科	Macropodidae	2
クスクス科	Phalangeridae	1
貧歯目	Edentata	2
フタユビナマケモノ科	Megalonychidae	2
長鼻目	Proboscidea	1
クジラ目	Cetacea	9
マイルカ科	Delphinidae	9
鰭脚目	Pinnipedia	16
アシカ科	Otariidae	14
哺乳類・計	Mammalia total	1382
爬虫類	Reptilia	4
魚類	Pisces	1
総計	Total	1387

表 3 霊長類液浸資料

和名	学名	標本数
ホミノイド	Hominoidea	89
テナガザル属	<i>Hylobates</i> spp.	46
チンパンジー属	<i>Pan troglodytes</i>	39
ゴリラ属	<i>Gorilla gorilla</i>	2
オランウータン属	<i>Pongo pygmaeus</i>	2
旧世界ザル	Cercopithecoidea	533
マカク属	<i>Macaca</i> spp.	389
ラングール属	<i>Presbytis</i> spp.	26
コロブス属	<i>Colobus</i> spp.	8
テングザル属	<i>Nasalis larvatus</i>	1
グエノン属	<i>Cercopithecus</i> spp.	65
パタス属	<i>Erythrocebus patas</i>	7
マンガベイ属	<i>Cercocebus</i> spp.	4
ゲラダヒヒ属	<i>Theropithecus gelada</i>	4
ヒヒ属	<i>Papio</i> spp.	27
マンドリル属	<i>Mandrillus</i> spp.	3
新世界ザル	Ceboidea	166
リスザル属	<i>Saimiri sciureus</i>	55
ヨザル属	<i>Aotus trivirgatus</i>	18
ティティ属	<i>Callicebus</i> spp.	3
サキ属	<i>Pithecus</i> spp.	1
ホエザル属	<i>Alouatta</i> spp.	4
クモザル属	<i>Ateles</i> spp.	8
オマキザル属	<i>Cebus</i> spp.	26
ピグミーマーモセット属	<i>Cebuella pygmaea</i>	4
マーモセット属	<i>Callithrix</i> spp.	9
タマリン属	<i>Saguinus</i> spp.	38
原猿類およびツパイ類	Prosimii & Tupaia	32
ツパイ属	<i>Tupaia</i> spp.	6
キツネザル属	<i>Lemur</i> spp.	10
エリマキキツネザル属	<i>Varecia</i> spp.	2
スローロリス属	<i>Nycticebus</i> spp.	8
ロリス属	<i>Loris</i> spp.	2
ガラゴ属	<i>Galago</i> spp.	4
種不明	Indt.	3
総計	Total	823

表 4 霊長類以外の液浸資料

和名	学名	標本数
食肉目	Carnivora	40
イヌ科	Canidae	1
ネコ科	Felidae	3
クマ科	Ursidae	2
イタチ科	Mustelidae	31
ジャコウネコ科	Viverridae	3
偶蹄目	Artiodactyla	1
ウシ科	Bovidae	1
齧歯目	Rodentia	4
ネズミ科	Muridae	3
ヌートリア科	Myocastoridae	1
ウサギ目	Lagomorpha	1
ウサギ科	Leporidae	1
有袋目	Marsupialia	2
カンガルー科	Didelphidae	1
クスクス科	Vombatidae	1
鰭脚目	Pinnipedia	1
アシカ科	Otariidae	1
哺乳類・計	Mammalia total	49
爬虫類	Reptilia	1
鳥類	Ave	1
総計	Total	51

7. 人事異動

所属分野等	職名	異動		内容	備考
		氏名	年月日		
高次脳機能	教授	中村克樹	2009/4/1	採用	国立精神・神経センター神経研究所モデル動物開発部長より
統合脳システム	教授	高田昌彦	2009/4/1	採用	(財) 東京都医学研究機構東京都神経科学総合研究所統合生理研究部門・副参事研究員より
人類進化モデル研究センター	教授	明里宏文	2009/4/1	採用	(独) 医薬基盤研究所重長類医科学研究センター疾患制御研究室長より
人類進化モデル研究センター	技術職員	須田直子	2009/4/1	採用	センター・技能補佐員より
国際共同先端研究センター	再雇用職員	南雲純治	2009/4/1	再雇用	認知学習分野・技術職員より
人類進化モデル研究センター	副所長	景山節	2009/4/1	併任	任期は 2010/3/31 まで
思考言語	国際共同先端研究センター長	松沢哲郎	2009/4/1	併任	任期は 2011/3/31 まで
※比較認知	寄附研究部門准教授	佐藤弥	2009/4/1	雇用更新	任期は 2010/3/31 まで
※比較認知	特定助教(寄附研究部門)	伊村知子	2009/5/1	採用	思考言語分野・特別研究員より
統合脳システム	特定助教(産官学連携)	井上謙一	2009/10/1	採用	統合脳システム分野・CREST研究員より
国際共同先端研究センター	特定職員	宿輪マミ	2009/10/1	採用	
遺伝子情報	人類進化モデル研究センター長	平井啓久	2009/10/1	併任	任期は 2011/9/30 まで
統合脳システム	助教	松本正幸	2009/11/16	採用	Laboratory of Sensorimotor Research, National Eye Institute, National Institutes of Health・Postdoc Fellow より
人類進化モデル研究センター	助教	早川敏之	2010/3/16	採用	大阪大学微生物病研究所・特任助教より
人類進化モデル研究センター	教授	景山節	2010/3/31	定年退職	
人類進化モデル研究センター	教授	松林清明	2010/3/31	定年退職	
遺伝子情報	助教	中村伸	2010/3/31	定年退職	
進化形態	技術職員	早川清治	2010/3/31	定年退職	2010/4/1 付国際共同先端研究センター再雇用
人類進化モデル研究センター	技術職員	熊崎清則	2010/3/31	定年退職	2010/4/1 付思考言語分野教務補佐員採用
※比較認知	寄附研究部門准教授	佐藤弥	2010/3/31	任期満了退職	2010/4/1 付次世代研究者育成センター(白眉プロジェクト)採用

※比較認知:比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門

8. 海外渡航

(1) 教職員

所属	氏名	期間	目的国	目的
思考言語	林美里	2009/4/1～4/6	アメリカ合衆国	幼児発達研究学会大会出席・発表・資料収集
系統発生	江木直子	2009/4/1～4/6	アメリカ合衆国	第78回アメリカ形質人類学会参加・発表・資料収集
社会進化	M.A.Huffman	2009/4/16～4/20	台湾	シンポジウム参加、研究連絡及びタイワンザルの行動観察
遺伝子情報	中村伸	2009/4/20～4/28	中華人民共和国	共同研究打ち合わせ、共同実験、試料収集
社会進化	古市剛史	2009/4/26～5/1	アメリカ合衆国	国際自然保護連合主催のボノボの保護に関するミーティング参加
社会進化	M.A.Huffman	2009/5/14～5/24	台湾	野生タイワンザルの野外調査及び講演、講義、研究連絡
生態保全	渡邊邦夫	2009/5/27～6/6	インドネシア共和国	スラウェシマカクの野外調査
進化形態	濱田穰	2009/5/30～6/6	タイ王国・ラオス人民共和国	研究打ち合わせ、マカク類フィールド調査
思考言語	松沢哲郎	2009/6/3～6/9	イタリア共和国	国際ワークショップ参加・講演・資料収集
センター	渡邊祥平	2009/6/9～7/10	ギニア共和国	野生チンパンジーの調査
社会進化	辻大和	2009/6/14～7/14	ウガンダ共和国	オナガザル類の採食生態調査、セミナー参加
系統発生	高井正成	2009/6/14～6/22	中華人民共和国	国際シンポジウム参加・発表・資料収集
生態保全	橋本千絵	2009/6/14～8/26	ウガンダ共和国	セミナー開催・参加・資料収集及び野生チンパンジーの生態学的調査
系統発生	江木直子	2009/6/14～6/22	中華人民共和国	国際シンポジウム参加・発表・資料収集
生態保全	渡邊邦夫	2009/6/18～6/25	中華人民共和国	サル類の調査及び研究打ち合わせ
進化形態	濱田穰	2009/7/10～7/18	タイ王国・バングラデシュ人民共和国	霊長類フィールド調査、研究打ち合わせ
認知学習	香田啓貴	2009/7/20～7/28	インドネシア共和国	研究調査・資料収集
社会進化	古市剛史	2009/8/7～10/12	ウガンダ共和国・コンゴ民主共和国	野外調査・研究連絡・共同研究基盤形成のための会議出席・セミナー参加
進化形態	國松豊	2009/8/7～11/2	ケニア共和国・タンザニア連合共和国	化石発掘調査、東アフリカ古人類学・古生物学協会第2回大会参加
ゲノム多様性	川本芳	2009/8/15～8/30	マダガスカル共和国	キツネザルの調査及び試料収集
進化形態	濱田穰	2009/8/15～9/9	タイ王国・ラオス人民共和国・ベトナム社会主義共和国	マカク類の分布と生息実態調査、霊長類の身体形態計測、研究打ち合わせ
センター	鈴木樹理	2009/8/17～8/21	大韓民国	第3回アジア動物園野生動物医学会国際会議参加発表・資料収集
センター	宮部貴子	2009/8/17～8/21	大韓民国	第3回アジア動物園野生動物医学会国際会議参加発表・資料収集
思考言語	松沢哲郎	2009/8/19～8/23	大韓民国	韓国生物科学会参加・講演及び動物園視察
生態保全	渡邊邦夫	2009/8/22～9/9	インドネシア共和国	野外調査、研究連絡
高次脳機能	中村克樹	2009/8/23～8/26	大韓民国	韓国心理学会に参加・発表・資料収集
比較認知発達	伊村知子	2009/8/28～9/6	タンザニア連合共和国	野生チンパンジー及び野生動物の観察・資料収集
思考言語	足立幾磨	2009/8/28～9/6	タンザニア連合共和国	野生チンパンジー及び野生動物の観察・資料収集

センター	宮部貴子	2009/8/29～9/12	オランダ王国	世界獣医麻酔学会参加・発表・資料収集、研究連絡、施設見学
系統発生	西村剛	2009/8/30～9/11	スイス・英国	曲鼻猿頭蓋骨標本の CT 撮像・資料収集、霊長類化石標本の形態分析
遺伝子情報	中村伸	2009/8/30～9/5	中華人民共和国	サルバイオメディカル試験に関する研究連絡
認知学習	松井智子	2009/9/2～9/15	英国	言語コミュニケーション研究に関するデータ収集、分析、情報収集
系統発生	高井正成	2009/9/22～9/29	英国	第 69 回古脊椎動物学会参加・発表・資料収集、研究打ち合わせ
系統発生	江木直子	2009/9/22～9/29	英国	第 69 回古脊椎動物学会参加・発表・資料収集、研究打ち合わせ
社会進化	M.A.Huffman	2009/9/23～10/6	スリランカ	講義、研究連絡
ゲノム多様性	川本芳	2009/9/23～10/31	スリランカ・バングラデシュ人民共和国	霊長類共同研究打ち合わせ、アカゲザル捕獲調査と分析
ゲノム多様性	田中洋之	2009/9/27～10/27	インドネシア共和国	スラウェシマカクの調査・研究打ち合わせ
生態保全	渡邊邦夫	2009/9/30～10/12	インドネシア共和国	スマトラ哺乳類野外調査及び研究連絡
進化形態	明里宏文	2009/10/2～10/8	フランス共和国	第 16 回国際 C 型肝炎ウイルスシンポジウム出席・発表・情報収集
進化形態	濱田穰	2009/10/5～10/10	タイ王国・バングラデシュ人民共和国	マカク形態学的調査・シンポジウム開催準備の研究打ち合わせ
社会進化	M.A.Huffman	2009/10/16～11/3	イタリア共和国	講演及び研究連絡
認知学習	香田啓貴	2009/10/16～10/22	フランス共和国	共同研究に関する打ち合わせ・実験準備
統合脳システム	高田昌彦	2009/10/17～10/23	アメリカ合衆国	Neuroscience 2009 に参加・発表・資料収集
高次脳機能	中村克樹	2009/10/17～10/21	アメリカ合衆国	第 39 回北米神経科学学会参加・研究連絡・資料収集
系統発生	高井正成	2009/10/19～10/30	中華人民共和国	北京原人発見 80 周年シンポジウム出席・発表、化石標本観察
社会進化	辻大和	2009/10/25～2010/1/24	ウガンダ共和国	オナガザル類の採食生態調査
進化形態	濱田穰	2009/10/26～11/2	タイ王国・ミャンマー連邦	マカク類分布・多様性調査のための研究打ち合わせ、大学院学生の研究指導
思考言語	松沢哲郎	2009/10/29～11/1	大韓民国	研究打ち合わせ
遺伝子情報	平井啓久	2009/10/30～11/1	大韓民国	研究打ち合わせ
認知学習	香田啓貴	2009/10/30～11/1	大韓民国	研究打ち合わせ
思考言語	林美里	2009/11/14～12/21	ギニア共和国・フランス共和国	野生チンパンジーの生態調査、資料収集
系統発生	江木直子	2009/11/14～12/25	ミャンマー連邦	ミャンマー中央部の新生代陸成層の古生物学的調査
ゲノム多様性	川本芳	2009/11/17～11/26	タイ王国・台湾	The 3rd International Congress on the Future of Animal Research 及び日本哺乳類学会出席・発表・資料収集、研究打ち合わせ
進化形態	濱田穰	2009/11/17～11/25	タイ王国	The 3rd International Congress on the Future of Animal Research 出席・発表・資料収集、研究打ち合わせ
思考言語	足立幾磨	2009/11/18～11/23	タイ王国	学生動向調査、The 3rd International Congress on the Future of Animal Research 出席・発表
センター	明里宏文	2009/11/18～11/24	タイ王国	The 3rd International Congress on the Future of Animal Research 出席・発表・資料収集、研究打ち合わせ

国際センター	宿輪マミ	2009/11/18～11/23	タイ王国	学生動向調査・誘致業務、The 3rd International Congress on the Future of Animal Research 参加
事務室	小倉一夫	2009/11/18～11/23	タイ王国	連携に係る国際拠点に関する事務連絡、The 3rd International Congress on the Future of Animal Research 参加
社会進化	M.A.Huffman	2009/11/18～11/24	タイ王国	The 3rd International Congress on the Future of Animal Research 出席・発表・資料収集、研究打ち合わせ
系統発生	西村剛	2009/11/18～12/1	タイ王国・ミャンマー連邦	The 3rd International Congress on the Future of Animal Research 出席・発表・資料収集、発掘調査
生態保全	渡邊邦夫	2009/11/19～11/27	台湾	日本哺乳類学会参加・資料収集、野外調査、研究連絡
系統発生	高井正成	2009/11/21～11/26	台湾	日本哺乳類学会参加・発表、骨格標本観察
遺伝子情報	平井啓久	2009/11/23～11/30	タイ王国	テナガザル調査・共同研究打ち合わせ
センター	宮部貴子	2009/11/23～11/30	タイ王国	テナガザル調査
生態保全	橋本千絵	2009/12/5～2010/2/18	ウガンダ共和国	野生チンパンジーの生態学的調査及び研究連絡
系統発生	高井正成	2009/12/5～12/23	ミャンマー連邦	発掘調査、標本整理・観察
高次脳機能	中村克樹	2009/12/6～12/11	ドイツ連邦共和国	実験装置の検討・共同研究打ち合わせ
事務室	新野正人	2009/12/7～12/16	ドイツ連邦共和国	長期調査野外研究の国際シンポジウム参加、海外パートナー機関との事務連絡
社会進化	古市剛史	2009/12/7～12/13	ドイツ連邦共和国	長期調査野外研究の国際シンポジウム参加・発表
思考言語	松沢哲郎	2009/12/7～2010/1/10	ドイツ連邦共和国・ギニア共和国	長期調査野外研究の国際シンポジウム参加・講演、野生チンパンジーの生態調査
思考言語	足立幾磨	2009/12/7～12/16	ドイツ連邦共和国	長期調査野外研究の国際シンポジウム参加、施設見学、情報収集、学生動向及び周知活動
進化形態	濱田穰	2009/12/7～12/14	タイ王国・ベトナム社会主義共和国	マカク多様性の調査研究打ち合わせ及び予備調査
系統発生	西村剛	2009/12/11～12/17	中華人民共和国	化石発掘調査及び標本観察
社会進化	M.A.Huffman	2009/12/11～12/18	チェコ共和国	集中講義・研究連絡
社会進化	古市剛史	2009/12/18～2010/1/10	ウガンダ共和国	野生チンパンジーの生態調査及び研究連絡
生態保全	渡邊邦夫	2010/1/18～2/7	インドネシア共和国	カニクイザル・クロザル等野外調査及び資料収集
進化形態	國松豊	2010/1/23～2/22	ケニア共和国	霊長類化石の標本調査
進化形態	濱田穰	2010/1/27～2/10	ラオス人民共和国・ベトナム社会主義共和国	マカク分布・生息状況調査
系統発生	西村剛	2010/2/1～2/3	中華人民共和国	中国広西産マカク化石の形態学的研究、研究打ち合わせ
遺伝子情報	平井啓久	2010/2/2～2/7	バングラデシュ人民共和国	テナガザルに関する野外調査及び共同研究打ち合わせ
思考言語	松沢哲郎	2010/2/15～2/21	マレーシア	海外パートナー機関との連携に関する打ち合わせ、フィールド調査地実態調査
事務室	新野正人	2010/2/15～2/21	マレーシア	海外パートナー機関との連携に関する打ち合わせ、フィールド調査地実態調査
事務室	細川明宏	2010/2/15～2/21	マレーシア	海外パートナー機関との連携に関する打ち合わせ、フィールド調査地実態調査
事務室	小倉一夫	2010/2/15～2/21	マレーシア	海外パートナー機関との連携に関する打ち合わせ、フィールド調査地実態調査
思考言語	足立幾磨	2010/2/15～2/17	大韓民国	学生動向調査、研究会参加

事務室	河田友彦	2010/2/27～3/4	マレーシア	派遣予定地調査及び研究協力要請、フィールド調査地実態調査
高次脳機能	中村克樹	2010/2/28～3/4	ドイツ連邦共和国	第18回欧州精神医学会参加・発表・研究打ち合わせ
認知学習	正高信男	2010/3/1～3/5	タイ王国	野生老齢ザルの調査及び資料・情報収集
センター	鈴木樹理	2010/3/2～3/6	台湾	霊長類試料収集のための打ち合わせ
思考言語	松沢哲郎	2010/3/5～3/8	ベルギー王国	I-BRAIN, festival on neuroscience 参加・講演・資料収集
系統発生	高井正成	2010/3/7～3/12	台湾	骨格標本観察
社会進化	M.A.Huffman	2010/3/8～3/27	スリランカ・シンガポール共和国	講義、野外霊長類の生態観察、研究連絡
思考言語	林美里	2010/3/10～3/16	アメリカ合衆国	国際乳児研究学会参加・発表
思考言語	友永雅己	2010/3/13～3/15	大韓民国	人類進化の霊長類的起源の解明に関する連携・共同研究に関する打ち合わせ、施設見学
生態保全	渡邊邦夫	2010/3/13～3/27	中華人民共和国	中国におけるサル類の調査及び研究打ち合わせ
系統発生	高井正成	2010/3/17～3/27	スリランカ・シンガポール共和国	化石標本観察
社会進化	古市剛史	2010/3/22～3/29	コンゴ民主共和国	ボノボの研究と保護に関する連絡会議及び研究連絡
生態保全	半谷吾郎	2010/3/22～4/7	スイス	「果実生産と霊長類群集の構造：温帯と熱帯の比較」に関する共同研究・資料収集

(2) 大学院生

所属	氏名	期間	目的国	目的
認知学習	三浦優生	2009/4/1～4/6	アメリカ合衆国	幼児発達研究学会大会出席・発表・資料収集
認知学習	福島美和	2009/5/27～6/1	アメリカ合衆国	International Mind Brain and Education Society 2009 参加・発表・資料収集
思考言語	小倉匡俊	2009/5/28～6/12	英国	国際エンリッチメント会議参加・発表・資料収集、動物飼育施設見学
思考言語	狩野文浩	2009/6/14～6/30	ウガンダ共和国	チンパンジーの野外調査
認知学習	澤田玲子	2009/7/27～8/3	オランダ王国	31st Annual Conference of the Cognitive Science Society 参加・発表・資料収集
認知学習	三浦優生	2009/7/27～8/3	オランダ王国	31st Annual Conference of the Cognitive Science Society 参加・発表・資料収集
社会進化	郷もえ	2009/7/29～10/2	ドイツ連邦共和国	霊長類の混群形成に関する社会生態学的研究
思考言語	Christopher Martin	2009/8/4～2010/1/9	アメリカ合衆国	ゲーム理論を学ぶため
思考言語	兼子峰明	2009/8/17～8/27	フランス共和国	第31回国際行動学会議出席・発表・資料収集
思考言語	山梨裕美	2009/8/17～10/28	フランス共和国・オランダ王国・ギニア共和国	第31回国際行動学会議出席・発表・資料収集、欧州動物飼育施設見学、野外調査、研究連絡
系統発生	伊藤毅	2009/10/1～11/30	アメリカ合衆国	サル頭骨のデータ取得
思考言語	山梨裕美	2010/2/15～2/17	大韓民国	共同研究打ち合わせ、研究会参加、資料収集
思考言語	狩野文浩	2010/2/15～2/17	大韓民国	共同研究打ち合わせ、研究会参加、資料収集

思考言語	狩野文浩	2010/2/22～3/5	ドイツ連邦共和国・オーストリア共和国	共同研究打ち合わせ、資料収集
思考言語	小倉匡俊	2010/3/13～3/15	大韓民国	研究打ち合わせ、資料収集

(3) 教務補佐員・技術補佐員・研究支援推進員

所属	氏名	期間	目的国	目的
生態保全	村井勲裕	2009/2/17～4/6	中華人民共和国	キンシコウ野外調査・資料収集
生態保全	村井勲裕	2009/7/20～8/2	インドネシア共和国	研究調査・資料収集
生態保全	村井勲裕	2009/8/18～9/16	インドネシア共和国	研究調査・資料収集
統合脳システム	二宮太平	2009/10/17～10/23	アメリカ合衆国	Neuroscience 2009 に参加・発表・資料収集
思考言語	打越万喜子	2009/10/30～11/2	大韓民国	施設見学・資料収集・研究打ち合わせ

(4) 非常勤研究員

所属	氏名	期間	目的国	目的
ゲノム多様性	市野進一郎	2009/4/16～6/8	マダガスカル共和国	野生ワオキツネザルに関する調査
思考言語	大橋岳	2009/6/9～7/10	ギニア共和国	野生チンパンジーの調査、セミナー参加
社会進化	坂巻哲也	2009/6/17～12/7	コンゴ民主共和国	ボノボの野外調査、研究連絡
ゲノム多様性	市野進一郎	2009/8/4～8/22	マダガスカル共和国	ワオキツネザルに関する調査・試料収集
生態保全	松田一希	2009/8/16～12/15	マレーシア・タイ王国	テングザルの追跡調査、研究打ち合わせ、The 3rd International Congress on the Future of Animal Research 参加・発表・試料収集
遺伝子情報	松井淳	2009/10/5～2010/2/27	英国	霊長類・ヒト特異的なミトコンドリアの電子伝達系タンパク質の進化についての研究
生態保全	松田一希	2010/1/12～2/28	マレーシア	野生テングザルの調査に関する研究連絡及び行動データ収集
思考言語	大橋岳	2010/2/9～3/5	ギニア共和国	野生チンパンジーの調査
認知学習	早川祥子	2010/3/1～3/20	アメリカ合衆国	テナガザルの行動調査・資料収集・映像撮影

(5) 学振特別研究員 (PD)

所属	氏名	期間	目的国	目的
思考言語	服部裕子	2009/8/28～9/6	タンザニア連合共和国	野生チンパンジー及び野生動物の観察・資料収集
生態保全	Rizaldi	2009/11/19～11/27	台湾	日本哺乳類学会参加・資料収集、野外調査、研究連絡
生態保全	江成広斗	2009/11/20～11/25	台湾	日本哺乳類学会参加・資料収集

9. 非常勤講師

(理) 久保拓弥 (北海道大学地球環境科学研究所助教)
「データ解析のための統計モデリング」

2009年12月3日～12月4日

(理) 村田哲 (近畿大学医学部生理学第一講座准教授)
「身体神経科学-脳の中の身体」

2009年12月10日～12月11日

(理) 馬塚れい子 ((独) 理化学研究所脳科学総合研究
センターチームリーダー)

「日本語の音律獲得」

2010年1月28日～1月29日

(霊) 高槻成紀 (麻布大学獣医学部教授)
「野生動物の生態学と保全学-草食獣を中心に-」

2010年2月18日～2月19日

(理) : 理学研究科 卒 (霊) : 霊長類研究所 卒

10. リサーチ・アシスタント (R・A)

(氏名 : 採用期間)

石川 直樹 : 2009年5月1日～2010年2月28日

小野 敬治 : 2009年5月1日～2010年3月31日

川合 静 : 2009年5月1日～2010年3月31日

鴻池 菜保 : 2009年5月1日～2010年3月31日

澤田 晶子 : 2009年5月1日～2010年3月31日

瀬占 雅史 : 2009年5月1日～2010年3月31日

グローバル COE

伊藤 毅 : 2009年4月1日～2010年3月31日

神田 恵 : 2009年4月1日～2009年5月31日

郷 もえ : 2009年4月1日～2010年3月31日

鈴木真理子 : 2009年4月1日～2009年9月30日

原澤 牧子 : 2009年4月1日～2010年3月31日

檜垣小百合 : 2009年4月1日～2009年9月30日

平井 大地 : 2009年4月1日～2010年3月31日

松岡絵里子 : 2009年4月1日～2009年9月30日

山本友紀子 : 2009年4月1日～2009年12月31日

11. ティーチング・アシスタント (T・A)

(氏名 : 採用期間)

霊長類学・野生動物系科目に係るもの

伊藤 毅 : 2009年6月1日～2010年2月28日

兼子 峰明 : 2009年6月1日～2010年2月28日

小林 良子 : 2009年6月1日～2010年2月28日

西岡佑一郎 : 2009年6月1日～2010年2月28日

全学共通科目に係るもの

鈴木 南美 : 2009年5月1日～2009年6月30日

2010年2月1日～2010年3月31日

廣澤 麻里 : 2009年5月1日～2009年6月30日

大谷 洋介 : 2010年2月1日～2010年3月31日

小川 詩乃 : 2010年2月1日～2010年3月31日

清長 豊 : 2010年2月1日～2010年3月31日

12. 年間スケジュール

2009年

4月 2-3日 オープンキャンパス

4月 6日 新入生オリエンテーション

4月 22日 新入所員歓迎会

5月 9-10日 共同利用研究会
「第10回ニホンザル研究セミナー」

6月 6-7日 共同利用研究会
「ニホンザルを考える」(犬山国際観光
センター・フロイデ)

6月 18日 本学創立記念日

7月 25-26日 犬山公開講座「サルを知る」

8月 4-5日 大学院修士課程入学試験

9月 19日 東京公開講座(日本科学未来館)

9月 28日 運営委員会

10月 2-3日 共同利用研究会「B ウィルス研究
-2009」

10月 15日 サル慰霊祭

10月 25日 市民公開

12月 19-20日 共同利用研究会
「第5回比較社会認知シンポジウム」

2010年

1月 8, 12日 博士論文発表会

1月 25日 修士論文発表会

2月 15-17日 全学共通科目「霊長類学の現在」

2月 22-23日 オープンキャンパス

3月 4-6日 ホミニゼーション研究会「霊長類ゲノ
ムの現状と多角的共同利用・共同研
究」(犬山国際観光センター・フロイ
デ)

3月 8日 運営委員会

3月 12日 景山節先生、松林清明先生最終講義